



2024年5月8日  
東日本旅客鉄道株式会社

## 東京駅南通路周辺整備に着手します

～日本のセントラルステーションにふさわしい東京駅の実現に向けて～

- JR 東日本では、日本のセントラルステーションにふさわしい東京駅の実現に向けて「TOKYO STATION CITY」のコンセプトのもと、2002 年から丸の内駅舎の保存・復原、八重洲口開発、丸の内駅前広場の整備、北通路周辺整備など、東京駅構内・駅周辺の整備・開発を進めてきました。
- このたび、2022 年 3 月に着手した南部東西自由通路の新設工事とあわせ、2024 年 5 月より、南通路周辺整備に着手します。
- 南通路周辺整備では、改札内南通路の改良、バリアフリー機能の強化、待合広場の開設をはじめとした駅サービス機能の強化、店舗エリアの拡大などにより、東京駅をご利用になるお客さまの利便性・快適性の向上、魅力的なエキナカ施設の展開を 2031 年度冬に実現します。
- これらにより「TOKYO STATION CITY」の大規模施設整備は一つの節目を迎えます。今後も東京駅のさらなる魅力と価値の向上を目指していきます。

### 1 「TOKYO STATION CITY」について

JR 東日本では、東京駅において 2002 年以降、北陸新幹線や上野東京ラインなどの鉄道ネットワークの整備・拡充、丸の内駅舎の保存・復原、駅前広場の整備、八重洲口開発、駅構内での通路機能拡充、グランスタなどのエキナカ開発を進め、多彩な魅力と機能を備えた駅づくり・まちづくりに取り組んできました。これらにより、お客さまの利便性や快適性を向上させるとともに、駅東西の回遊性向上など駅周辺のまちづくりの一翼を担ってきました。

## 東 TOKYO STATION CITY

#### 広域鉄道ネットワークの結節点

JR東日本 東京駅

乗車人員	発着本数
約 40 万人/日 (2023年4月～12月)	約 3,080 本/日 (2024年3月改正)

多彩な魅力と機能を備えた駅

#### 歴史を象徴する東京駅の顔

丸の内駅舎保存・復原(2012年完成)

丸の内駅前広場(2017年完成)

八重洲口開発(2014年全体開業)

未来を象徴する場

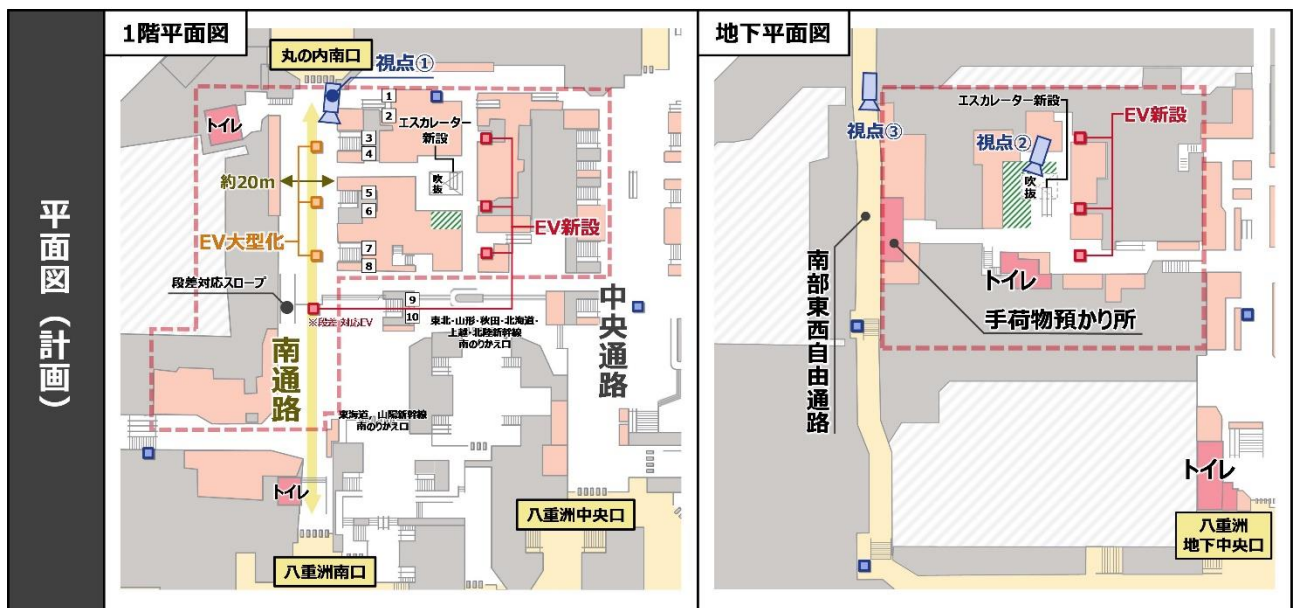
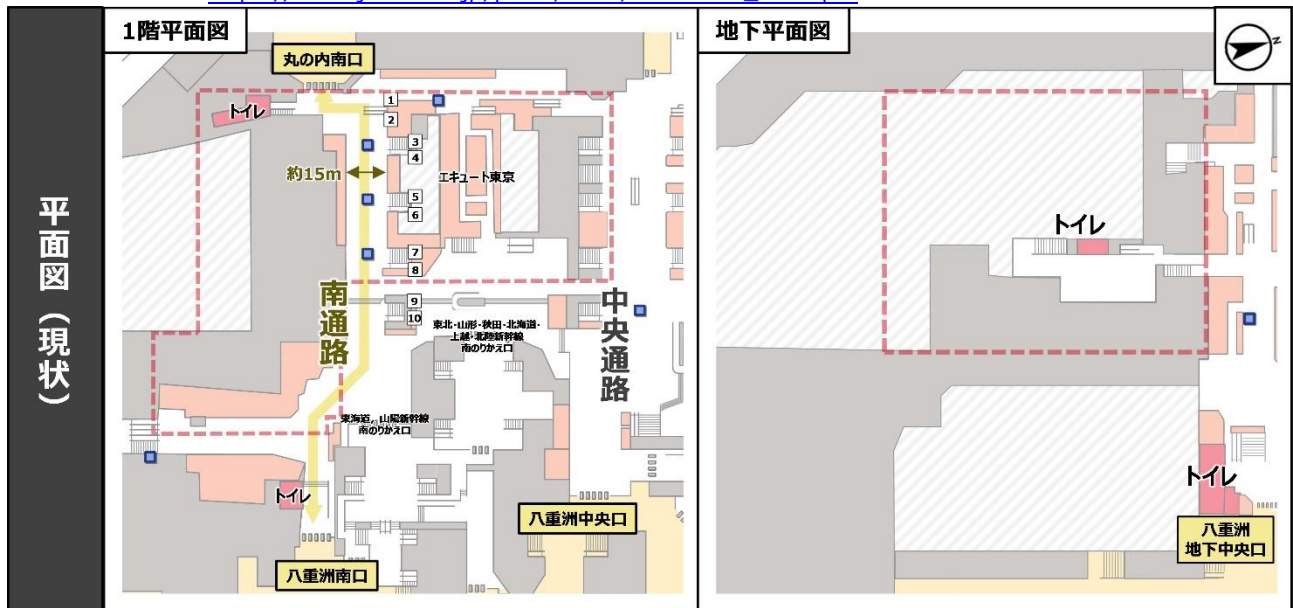
## 2 南通路周辺整備の概要

このたび、2022年3月に着手した地下1階の南部東西自由通路※の新設工事とあわせ、中央通路南側の地下1階および1階において、2024年5月より駅改良工事に着手します。約9,500㎡の新たな空間を創出することで、南通路の拡幅やバリアフリー機能の強化などによる駅の利便性・快適性の向上や賑わいのある魅力的なエキナカ施設の展開を行い、国内外のお客さまに分かりやすく快適にご利用いただける環境を整えていきます。全体完成時期は2031年度冬を予定しています。

※東京駅周辺の回遊性の高い歩行者ネットワーク強化に向けて整備する自由通路（2029年頃使用開始予定）

【プレスリリース】 [https://www.jreast.co.jp/press/2021/20220310\\_ho01.pdf](https://www.jreast.co.jp/press/2021/20220310_ho01.pdf)（2022年3月10日）

[位置図]



凡例	整備範囲	エレベーター（新設）	エレベーター（大型化）	エレベーター（既設）	駅施設	店舗	改札外コンコース	待合広場	駅業務施設・後方施設・機械室等	盛土	

## 2-1 駅の利便性・快適性の向上

### (1) 改札内南通路の改良

丸の内南口と八重洲南口の改札内を結ぶ南通路は、大きな手荷物をお持ちのお客さまのご利用が多く混雑しているため、通路幅員を拡幅し天井を高くすることで明るく開放感のある通路に改良します。また、コンコースの直線化により見通しを改善し、わかりやすく快適な駅を実現します。

[表 1 南通路整備概要]

	現状	2031年度冬(全体完成時)
通路幅員	約 15m	約 20m
天井高	約 2.4m	約 2.6m～約 3.0m



[完成時イメージ] 1階 南通路コンコース(平面図 視点①)

※パース・図は現時点でのイメージであり、実際とは異なる場合があります。

### (2) バリアフリー機能の強化

中央通路南側において下表のとおりエレベーターを新設・大型化するとともに、南通路に段差対応スロープを新設することにより、車いすをご利用になるお客さまや大きな手荷物をお持ちの国内外のお客さま、ベビーカーをご利用のお客さまなどにとってのスムーズな移動環境を実現し、さらなる利便性向上を図ります。

[表 2 エレベーター整備概要]

番線	エレベーター着床階	定員
3・4番線(山手線・京浜東北線)	【大型化】1階⇔ホーム階	15人
	【新設】地下1階⇔1階⇔ホーム階	24人
5・6番線(山手線・京浜東北線)	【大型化】1階⇔ホーム階	15人
	【新設】地下1階⇔1階⇔ホーム階	24人
7・8番線(常磐線・宇都宮線・高崎線・上野東京ライン)	【大型化】1階⇔ホーム階	15人
	【新設】地下1階⇔1階⇔ホーム階	24人
9・10番線(東海道線)	【新設】1階(段差対応)⇔ホーム階	15人

### （３） 駅サービス機能の向上

吹抜けのあるシンボリックな空間に隣接する待合広場（合計約 300 ㎡）を地下 1 階と 1 階に整備します。待合機能を強化することにより、改札内で滞在されるお客さまの着席ニーズにお応えするとともに、日本各地の魅力を伝える情報発信・イベントなども行います。また、地下 1 階の待合広場周辺では改札内トイレ（多機能トイレ含む）や手荷物預かり所を整備し、駅サービス機能の向上を図ります。



〔完成時イメージ〕 地下 1 階 吹抜空間と待合広場（平面図 視点②）

※パース・図は現時点でのイメージであり、実際とは異なる場合があります。

## 2 - 2 賑わいのある魅力的なエキナカ施設の展開

### （１） 駅改札内の 1 階・地下 1 階について

南通路周辺の 1 階既存店舗を拡大・リニューアルするとともに、新たに生み出される地下 1 階のスペースに店舗を設置します。1 階では、乗り換えのお客さまのニーズを満たすとともに、新たな出会いや発見のある店舗展開を行います。また、地下 1 階の吹抜空間周辺では、待合広場の周囲に飲食店舗を設置するとともに、日本各地の魅力が感じられる情報発信などを行うことで、非日常感を味わいながらゆったりとお過ごしいただける空間を創出します。

なお、本工事に伴い、南通路周辺の店舗は順次営業を終了します。エキュート東京につきましては段階的に店舗の閉店を行い、2024 年 8 月頃に全店舗の営業を終了する予定です。

## (2) 駅改札外の南部東西自由通路周辺について

2029年頃に暫定供用開始を予定している地下1階の南部東西自由通路周辺に店舗などを新設し、自由通路の賑わい創出を図ります。



[完成時イメージ] 地下1階 南部東西自由通路周辺の店舗 (平面図 視点③)

※パース・図は現時点でのイメージであり、実際とは異なる場合があります。

### <全体整備概要>

- ・所在地： 東京都千代田区丸の内1-9-1 JR東京駅地下1階、1階改札内外
- ・整備面積： 約18,100㎡ (駅サービス施設、コンコース、店舗等)
- ・昇降設備： エレベーター新設4基、エレベーター大型化3基  
エスカレーター新設2基 (吹抜空間)、段差対応スロープ1箇所
- ・駅サービス施設： 待合広場 (約300㎡)、改札内トイレ (多機能トイレ含む)、手荷物預かり所
- ・売場面積： 約4,400㎡
- ・店舗業種： 飲食、食物販、雑貨など
- ・店舗開発運営： (株)JR東日本クロスステーション
- ・全体完成時期： 2031年度冬